

## 学修目標達成度 修士（国際関係学）

年度	回答者数	RK1	RK2	RK3	RK4	RS1	RS2	RS3	RS4	RA1	RA2	RA3	RA4
2025	22	4.36	4.23	4.36	4.50	4.55	4.50	4.50	4.36	4.41	4.27	4.45	4.36
2024	28	4.25	4.18	4.11	4.32	4.39	4.50	4.32	4.25	4.25	4.21	4.00	4.36
2023	27	4.22	4.04	4.22	4.44	4.52	4.41	4.56	4.11	4.19	4.41	4.19	4.41
2022	23	4.70	4.26	4.74	4.65	4.70	4.61	4.52	4.48	4.39	4.57	4.35	4.39
2021	23	4.48	4.09	4.26	4.30	4.57	4.43	4.39	4.35	4.26	4.48	4.04	4.39

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

ディプロマ・ポリシー

修士（国際関係学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

<知識>

RK1: 国家の外交及び安全保障政策についての基礎的な知識

RK2: グローバルな政治経済学と国際経済秩序システムの知識

RK3: 国際紛争解決に役立つ道具・方法・手段に必要な知識

RK4: 諸国家間での行為における人権と正義についての知識

<スキル>

RS1: 国際関係論分野の基礎的知識を明示する能力

RS2: 国際関係の動態を理解する能力

RS3: 国際関係諸問題を学術的・批判的に分析する能力

RS4: 国際関係諸問題についての政策議論に参加・意見交換する能力

<学術的態度>

RA1: 政策分析と評価における学際的なアプローチを取る態度

RA2: 国際社会の平和・安定・発展へ寄与する姿勢

RA3: 政策立案に際し知的に刺激的で創造性に富むアイデアを展開する態度

RA4: 政府・外交・国際ビジネス・非政府組織・国際機関での活躍に必要な能力と知識を装備

## 学修目標達成度 修士（政治学）

年度	回答者数	SK1	SK2	SK3	SK4	SS1	SS2	SS3	SS4	SA1	SA2	SA3	SA4
2025	4	4.25	4.75	4.25	4.50	4.25	4.25	4.50	4.25	4.25	4.25	4.25	4.50
2024	3	3.67	4.33	3.67	4.33	4.00	4.00	3.67	3.67	4.00	4.33	3.67	3.33

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

ディプロマ・ポリシー

修士（政治学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

<知識>

SK1: 政治学の分野で使用される諸方法論についての知識

SK2: 行政、公共サービス、地方自治体、政治制度とその比較、などのガバナンスにおける基礎的な知識

SK3: 政治学の諸分野（比較政治、外交政策、国際法、国際政治、政治経済学、政治理論など）における基礎的な知識

SK4: 特定のテーマや地域に関する政治学やその関連分野における諸問題についての知識

<スキル>

SS1: 政治学分野の基礎的知識を明示する能力

SS2: 政治学の複雑な諸問題を理解する能力

SS3: 政治学諸問題を学術的・批判的に分析する能力

SS4: 政治学諸問題についての政策議論に参加・意見交換する能力

<学術的態度>

SA1: 政策分析と評価における学際的なアプローチを取る態度

SA2: 平和で安定した政治制度の発展へ寄与する姿勢

SA3: 政策立案に際し知的に刺激的で創造性に富むアイデアを展開する態度

SA4: 政府・外交・国際ビジネス・非政府組織・国際機関での活躍に必要な能力と知識を装備

## 学修目標達成度 修士（国際開発学）

年度	回答者数	DK1	DK2	DK3	DK4	DK5	DS1	DS2	DS3	DS4	DS5	DA1	DA2	DA3	DA4	DA5
2025	5	3.80	4.00	4.00	4.00	4.20	3.80	3.60	3.60	3.80	4.20	4.00	4.20	4.20	4.60	4.60
2024	1	4.00	4.00	4.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	4.00	4.00	3.00	3.00	4.00	4.00
2023	4	4.75	5.00	4.75	4.50	4.75	4.75	4.25	4.75	4.75	4.75	5.00	5.00	4.75	5.00	4.75
2022	8	4.50	4.75	4.75	4.50	4.50	4.50	4.75	4.75	4.63	4.75	4.75	4.75	4.88	4.75	4.63
2021	9	4.00	4.11	4.56	3.78	4.00	4.33	4.22	4.00	4.33	4.22	4.44	4.33	4.33	4.67	4.56

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

ディプロマ・ポリシー

修士（国際開発学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

<知識>

DK1: 経済学、公共経営学、国際関係学における高度な知識

DK2: 地域、国およびグローバルなレベルでの開発問題を識別する能力

DK3: 習得した知識を応用して開発問題を分析する能力

DK4: 開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力

DK5: 政策策定に影響力のある政策担当者に経済改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝える能力

<スキル>

DS1: 地域、国およびグローバルなレベルでの価値観や制度の多様性を適切に理解し、開発のための実践的リーダーとして行動する能力

DS2: 経済学、公共経営学および国際関係学の理論を援用し、開発問題を適切に分析する能力

DS3: 詳細な分析を通じて開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力

DS4: 現実の経済改革を推進するため、政策担当者、アカデミア、市民団体を含むすべての利害関係者と連携し、改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝えることができる能力

DS5: 開発の専門家としての視野を広げるため、他分野の専門性を尊重し、学際的なチームで働くことができる能力

<学術的態度>

DA1: 開発問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ

DA2: 常に最新の研究動向を理解し、高い分析能力を維持する姿勢

DA3: 現実の経済改革に貢献するという強い心構え

DA4: 他分野の専門性を尊重する態度

DA5: 開発の現場での多様な価値観や制度を尊重する姿勢

## 学修目標達成度 修士（経済学）

年度	回答者数	EK1	EK2	EK3	EK4	ES1	ES2	ES3	ES4	ES5	EA1	EA2	EA3	EA4	EA5
2025	19	4.32	4.26	4.37	4.26	4.26	4.21	4.21	4.16	4.37	4.47	4.26	4.21	4.32	4.26
2024	34	4.15	4.21	4.32	4.18	4.12	4.29	4.15	4.24	4.44	4.38	4.32	4.21	4.35	4.35
2023	22	4.55	4.59	4.50	4.50	4.64	4.50	4.55	4.41	4.59	4.68	4.73	4.59	4.64	4.64
2022	21	4.05	4.19	4.14	4.24	4.10	4.19	4.14	4.10	4.29	4.38	4.43	4.29	4.38	4.29
2021	30	4.13	4.13	4.23	4.13	4.20	4.37	4.27	4.07	4.40	4.57	4.50	4.23	4.60	4.27

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

ディプロマ・ポリシー

修士（経済学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

<知識>

EK1: 現実の問題を分析するために必要な、ミクロおよびマクロ経済学の高度な知識

EK2: 実証分析のための、統計、計量およびその他のデータ分析能力

EK3: 学際的な知識を尊重し、経済学がいかに他の社会科学と関連しているかを認識する能力

EK4: 最新の研究成果を経済問題の分析に応用する能力

<スキル>

ES1: 経済学の概念を応用し、現実の経済的および社会的問題に経済学を適用する能力

ES2: 経済問題や経済政策を分析するための戦略的思考能力

ES3: データに基づいた実証分析を行うために必要とされる数学および統計学の知識

ES4: 経済問題に対する適切な助言を政府および民間部門に行うことができるコミュニケーション能力

ES5: あらゆる状況下でチームの一員として協力的に行動する能力

<学術的態度>

EA1: 経済および社会問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ

EA2: 経済および社会問題を理解するために、適切な分析力を適応する姿勢

EA3: 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え

EA4: 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度

EA5: 経済学の知識を現実の経済問題の解決に用いる姿勢

## 学修目標達成度 修士（公共経営学）

年度	回答者数	PK1	PK2	PK3	PK4	PK5	PK6	PS1	PS2	PS3	PS4	PS5	PS6	PA1	PA2	PA3
2025	23	4.22	4.30	4.00	4.13	3.91	4.13	4.04	3.96	4.09	4.09	3.96	4.04	4.22	4.09	3.96
2024	28	4.36	4.43	4.32	4.25	4.39	4.39	4.21	4.29	4.32	4.14	4.14	4.25	4.32	4.32	4.32
2023	37	4.51	4.62	4.54	4.51	4.65	4.38	4.73	4.41	4.57	4.57	4.59	4.51	4.68	4.54	4.70
2022	32	4.44	4.47	4.28	4.44	4.41	4.31	4.53	4.44	4.44	4.34	4.25	4.38	4.44	4.53	4.47
2021	31	4.55	4.42	4.19	4.39	4.45	4.42	4.39	4.45	4.42	4.39	4.23	3.97	4.35	4.48	4.52

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（公共経営学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

#### <知識>

PK1: 国や地方政府の基本的な役割や責任への知識

PK2: 公共政策過程における重要な段階についての理解。また、各段階において重要な個人、団体等のアクターの役割についての理解

PK3: 公共政策における対立・係争を分析する能力。また、政策的な手段を使い、対立・係争を平和的に解決するための手法

PK4: 公共政策過程における説明責任と、政策や政府運営におけるパフォーマンスについての理解

PK5: 公共セクターにおける管理職や政策アナリストが果たす役割についての理解

PK6: 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGOなど政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解

#### <スキル>

PS1: 公共経営、公共政策に係る知識

PS2: 公共経営、公共政策に係る分析的な文章作成スキル

PS3: 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、自分の言葉で要約し、さらに批判的に検討する能力

PS4: 政府内での政策形成過程や市民との討議で必要とされる、議論を有効かつ円滑に進めるスキル（いわゆるグループファシリテーション）

PS5: 公共経営、公共政策について、プレゼンテーションをはじめとする人前で論理的に話すスキル

PS6: 国や地方政府が直面する、公共経営、公共政策に係る問題について、批判的に検討・議論する能力

#### <学術的態度>

PA1: 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え

PA2: 公共政策に係る情報提供や分析に貢献する心構え

PA3: 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解

## 学修目標達成度 修士（公共政策学）

年度	回答者数	TK1	TK2	TK3	TK4	TK5	TK6	TK7	TS1	TS2	TS3	TS4	TS5	TS6	TA1	TA2	TA3	TA4
2025	20	4.35	4.50	4.30	4.20	4.25	4.45	4.25	4.45	4.50	4.55	4.50	4.30	4.35	4.35	4.30	4.50	4.45
2024	9	4.22	4.33	4.00	4.22	4.11	4.22	4.22	4.11	4.00	4.11	4.11	4.11	4.22	4.00	4.11	4.00	4.11

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（公共政策学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

#### <知識>

TK1: 公共政策学の基礎的な理論についての知識

TK2: 公共政策学の研究で使用されている研究手法についての知識

TK3: 公共政策過程における重要な段階についての知識

TK4: 国や地方政府の基本的な役割や責任についての理解

TK5: 公共セクターにおける管理職や政策アナリストが果たす役割についての理解

TK6: 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGO など政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解

TK7: 公共政策過程における ICT の役割についての理解

#### <スキル>

TS1: 公共経営、公共政策に係る知識

TS2: 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、批判的に検討する能力

TS3: 公共政策学の学術的知見を応用して、現実社会における問題を解決・分析する能力

TS4: データ収集と計量分析を遂行する能力

TS5: データを収集・分析して、政策提言を行う能力

TS6: 公共経営、公共政策について、プレゼンテーションをはじめとする、人前で論理的に話すスキル

#### <学術的態度>

TA1: 学際的な立場から、公共政策過程を分析する心構え

TA2: 学術的な立場から、自主的に研究を遂行する心構え

TA3: 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え

TA4: 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解

## 学修目標達成度 修士（国際公共政策）

年度	回答者数	IK1	IK2	IK3	IK4	IS1	IS2	IS3	IS4	IA1	IA2	IA3
2025	9	4.22	4.11	4.00	4.22	4.22	4.00	4.11	4.11	4.00	3.89	4.22
2024	18	4.28	4.06	4.11	4.06	4.28	4.22	4.17	4.17	3.94	4.17	4.22
2023	14	4.64	4.43	4.57	4.21	4.79	4.64	4.64	4.57	4.79	4.43	4.64

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（国際公共政策）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

#### <知識>

IK1: 外交・安全保障政策または公共政策の基本概念を修得すること。

IK2: 国際政治・経済の基本的な枠組みとシステムを理解すること。

IK3: 国際間の紛争やさまざまな国内問題の解決のための政策手段について理解を持つこと。

IK4: 国際間の問題及び国内問題のいずれに対処するにあたって重要な人権や世界で共有されている諸概念について十分な理解を持つこと。

#### <スキル>

IS1: 国際関係または公共政策において基本的に重要な知識を活用できること。

IS2: 国際関係と国内政策の実施に係るさまざまなダイナミズムを理解する能力を持つこと。

IS3: 国際関係と国内政策に関連する諸問題を、学問的知見に依拠しつつ分析する能力を持つこと。

IS4: 国際公共政策に関するさまざまな議論・知的交流に参画するに足る能力を持つこと。

#### <学術的態度>

IA1: 政策分析及び評価において、幅広い学際的なアプローチをとる視点を持つこと。

IA2: 国際社会の平和・安定・発展に対して貢献しようとする意志があること。

IA3: 公共政策の立案において、常に知的刺激に満ちた革新的なアイデアを生み出そうとする姿勢を持つこと。

## 学修目標達成度 博士（国際関係学）

年度	回答者数	PRK1	PRK2	PRK3	PRK4	PRS1	PRS2	PRS3	PRS4	PRA1	PRA2	PRA3	PRA4
2025	1	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00
2023	2	5.00	5.00	4.50	4.50	5.00	4.50	4.50	5.00	5.00	4.50	3.00	3.00
2022	1	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00
2021	1	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

ディプロマ・ポリシー

博士（国際関係学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

<知識>

PRK1: 国際関係論内の専攻分野における高度な知識

PRK2: 学術的研究における認識論的・方法論的パラダイムの知識

PRK3: 国際関係論分野における大学院レベル教育において指導できるのに十分な知識

PRK4: 国際的諸問題を扱うための理論と実践とを繋ぐ全体論的アプローチの知識

<スキル>

PRS1: 国際諸問題を深く理論的に理解する能力

PRS2: 国際関係論分野の最先端研究領域を切り開く能力

PRS3: 学術的出版物に貢献できる研究を行う能力

PRS4: 学術的誠実さの遂行に知的に専念する能力

<学術的態度>

PRA1: 学術的分野のさらなる発展に寄与する姿勢

PRA2: 獲得した知識を将来の研究者を教育するために用いる態度

PRA3: 学術団体を支援する活動に関わる態度

PRA4: 専門的実践家として政策立案分析に関わる姿勢

## 学修目標達成度 博士（経済学）

年度	回答者数	PKD1	PKD2	PKD3	PKD4	PDS1	PDS2	PDS3	PDS4	PDS5	PDA1	PDA2	PDA3	PDA4
2025	1	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

博士（経済学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

#### <知識>

PDK1: 現実の問題を分析するために必要な、最先端のミクロおよびマクロ経済学の最新の知識

PDK2: 実証分析のための、最先端の統計、計量およびその他のデータ分析能力を有し、それを経済問題の分析に応用する能力

PDK3: 十分な計量手法に関する知識を有し、それを現実の経済政策の分析評価に用いる能力

PDK4: 最新の分析手法を援用し、学術論文を仕上げる能力

#### <スキル>

PDS1: 経済学の理論的および実証的知識を援用し、重要な現実の経済問題を分析する能力

PDS2: 経済問題や経済政策を評価するための経済学の専門能力

PDS3: データに基づいた実証分析を行うための数学および統計学の高度な知識

PDS4: 経済学の専門的セミナーにおけるプレゼンテーション能力、および政府および民間部門に適切な助言を行う能力

PDS5: 重要な経済問題に関して、専門ジャーナルに論文を公表する能力

#### <学術的態度>

PDA1: 経済および社会問題を独力で論理的かつ創造的に考察する姿勢

PDA2: 専門誌を常にフォローし、質の高い研究に関わる知識を習得する姿勢

PDA3: 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え

PDA4: 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度

## 学修目標達成度 博士（公共経営学）

年度	回答者数	PPK1	PPK2	PPK3	PPK4	PPK5	PPS1	PPS2	PPS3	PPS4	PPA1	PPA2	PPA3
2024	2	4.50	5.00	4.50	4.50	3.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.00	4.00	4.00
2021	1	5.00	5.00	4.00	5.00	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

博士（公共経営学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件としています。

#### <知識>

PPK1: 国や地方政府の基本的な役割や責任への知識

PPK2: 公共政策過程における重要な段階についての理解。また、各段階において重要な個人、団体等のアクターの役割についての理解

PPK3: 公共政策における対立・係争を分析する能力。また、政策的な手段を使い、対立・係争を平和的に解決するための手法

PPK4: 公共政策過程における説明責任と、政策や政府運営におけるパフォーマンスについての理解

PPK5: 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGOなど政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解

#### <スキル>

PPS1: 公共経営、公共政策に係る知識

PPS2: 公共経営、公共政策に係る分析的な文章作成スキル

PPS3: 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、自分の言葉で要約し、さらに批判的に検討する能力

PPS4: 国や地方政府が直面する、公共経営、公共政策に係る問題について、批判的に検討・議論する能力

#### <学術的態度>

PPA1: 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え

PPA2: 公共政策に係る情報提供や分析に貢献する心構え

PPA3: 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解

## 学修目標達成度 修士（経営学）MBAプログラム

年度	回答者数	MM1	MM2	MM3	MS1	MS2	MS3	ML1	ML2	MP1	MP2	MP3	MP4	MF1	MF2	MF3	MF4	MF5	MF6
2025	61	4.59	4.49	4.67	4.49	4.36	4.44	4.43	4.70	4.52	4.52	4.49	4.62	4.56	4.16	4.00	3.92	4.13	4.23
2024	42	4.45	4.33	4.50	4.33	4.31	4.24	4.38	4.40	4.31	4.26	4.33	4.38	4.40	4.14	4.17	4.02	4.02	4.10
2023	43	4.40	4.47	4.53	4.35	4.26	4.33	4.35	4.58	4.56	4.53	4.51	4.56	4.42	4.28	4.02	3.91	4.07	4.26
2022	36	4.39	4.47	4.42	4.36	4.28	4.28	4.44	4.61	4.56	4.56	4.44	4.47	4.56	4.22	3.92	3.94	4.11	3.81
2021	30	4.20	4.23	4.57	4.20		4.27	4.07	4.47	4.37	4.40	4.13	4.23	4.33	3.87	3.83	3.53	3.90	

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（経営学）MBAプログラムの学位課程では、以下の修得を学位授与の条件としています。

#### <多文化・異文化理解と対応能力>

世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する。

MM1: 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる。

MM2: 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる。

MM3: 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる。

#### <社会的責任意識>

関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する。

MS1: 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる。

MS2: 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる。

MS3: 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる。

#### <リーダーシップ>

ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ。

ML1: リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる。

ML2: 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる。

#### <問題解決能力>

置かれた特定の状況について得られたインプットを分析・理解し、適切な情報の分析評価のもとに確信の形成と最適解の選択を行う。

MP1: 重要課題（イシュー）を定式化・定義する能力を示すことができる。

MP2: 必要に応じて多様な分析や計算を行うことができる。

MP3: 特定の概念やデータを適切に解釈する能力を示すことができる。

MP4: 複数の意思決定上の選択肢を比較評価し、最適と思われる選択を行うことができる。

#### <経営における分野別の専門知識>

世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している。

MF1: 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF2: 財務論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF3: 情報技術とオペレーション／サプライチェーン・マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF4: マーケティング論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF5: 会計学に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF6: データ分析とデジタル技術に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

## 学修目標達成度 修士（経営学）MBA1年制プログラム

年度	回答者数	MM1	MM2	MM3	MS1	MS2	MS3	ML1	ML2	MD1	MD2	MD3
2025	6	4.33	4.00	4.33	3.83	4.00	3.83	4.00	3.83	3.83	3.67	3.67
2024	11	3.91	3.91	4.27	3.55	3.45	3.82	3.82	4.36	4.18	4.09	4.00
2023	10	4.40	4.00	4.30	4.00	4.30	4.30	4.20	4.50	4.00	4.10	3.40
2022	5	4.40	4.60	4.80	4.40	4.40	4.40	4.20	4.40	4.40	4.20	4.40
2021	2	5.00	4.00	5.00	3.50	3.50	3.00	4.00	4.50	4.00	3.00	4.00

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（経営学）MBA1年制プログラムの学位課程では、以下の修得を学位授与の条件としています。

#### <多文化・異文化理解と対応能力>

世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する。

MM1: 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる。

MM2: 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる。

MM3: 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる。

#### <社会的責任意識>

関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する。

MS1: 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる。

MS2: 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる。

MS3: 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる。

#### <リーダーシップ>

ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ。

ML1: リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる。

ML2: 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる。

#### <日本の経営およびその論理的背景の理解>

日本の経営およびその論理的背景を、さまざまな視点から理解している。視点の例としては雇用慣行、企業統治、および製造管理技術が含まれる。

MD1: 日本の諸産業および特に製造に関する戦略への理解を有していることを示すことができる。

MD2: 日本の雇用慣行・雇用制度に関する理解を有していることを示すことができる。

MD3: 日本企業における企業統治のあり方と経営理念の効用に関する理解を有していることを示すことができる。

## 学修目標達成度 修士（経営学）日本・グローバル開発学プログラム

年度	回答者数	MM1	MM2	MM3	MS1	MS2	MS3	ML1	ML2	MF1	MF2	MF3	MF4	MF5	MJ1	MJ2	MJ3	MJ4
2025	1	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	5.00	4.00	4.00
2024	6	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.17	4.83	4.67	3.83	3.50	4.00	3.50	4.67	4.83	4.83	4.67
2023	4	4.75	4.75	4.75	4.50	4.75	4.75	4.25	4.75	4.75	4.50	4.25	4.75	4.75	4.50	4.50	4.50	4.75
2022	3	5.00	4.00	4.67		4.33		4.67	4.67	5.00	4.33	4.33	4.33	4.33	5.00	5.00	5.00	5.00
2021	1	5.00	5.00	5.00		5.00		5.00	5.00						5.00	5.00	5.00	

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（経営学）日本・グローバル開発学プログラムの学位課程では、以下の修得を学位授与の条件としています。

#### <多文化・異文化理解と対応能力>

世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意する共通目標を確立する能力を有する。

MM1: 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる。

MM2: 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる。

MM3: 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる。

#### <社会的責任意識>

関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する。

MS1: 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる。

MS2: 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる。

MS3: 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる。

#### <リーダーシップ>

ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ。

ML1: リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる。

ML2: 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる。

#### <経営における分野別の専門知識>

世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している。

MF1: 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF2: 財務論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF3: 情報技術とオペレーション／サプライチェーン・マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF4: マーケティング論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF5: 会計学に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

#### <日本の経営およびその論理的背景の理解>

日本の経営およびその論理的背景を、さまざまな視点から理解している。視点の例としては雇用慣行、企業統治、および製造管理技術が含まれる。

MJ1: 日本の諸産業および特に製造に関する戦略への理解を有していることを示すことができる。

MJ2: 日本の雇用慣行・雇用制度に関する理解を有していることを示すことができる。

MJ3: 日本企業における企業統治のあり方と経営理念の効用に関する理解を有していることを示すことができる。

MJ4: 日本の社会やビジネス環境への理解を有していることを示すことができる。

## 学修目標達成度 修士（デジタル経営学）

年度	回答者数	MS1	MS4	ML1	ML2	ML3	MF1	MF2	MF3	MF4	MF5	MF7	MT1	MT2	MT3
2025	7	4.29	4.29	4.43	4.29	4.14						4.29	4.43	4.29	4.14
2024	7	4.14	4.43	4.14	4.43	4.29						4.29	4.43	4.43	4.57
2023	3	4.00	4.33	4.00	4.33	4.00	4.00	2.00	4.67	4.00	1.33		4.67	4.67	4.67
2022	10	4.20	4.10	4.10	4.20	4.10	4.10	3.40	4.20	4.40	3.20		4.30	4.20	4.30

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（デジタル経営学）の学位課程では、以下の修得を学位授与の条件としています。

#### <社会的責任意識>

関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する。

MS1: 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる。

MS4: 社会的およびビジネス的価値の創造における社会的責任に対してテクノロジーがもつ意味を理解できる。

#### <リーダーシップ>

ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ。

ML1: リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる。

ML2: 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる。

ML3: 戦略的イニシアチブを取り、組織変革をリードすることができる。

#### <経営における分野別の専門知識>

世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している。

MF1: 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF2: 財務論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF3: 情報技術とオペレーション/サプライチェーン・マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF4: マーケティング論に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF5: 会計学に関して十分な理解を有していることを示すことができる。

MF7: 基本的なビジネス知識に関して十分な理解を有していることを示すことができる

#### <テクノロジーとデジタル変革>

最新のテクノロジー要素を適用して、新しいビジネスを創造したり、デジタル変革を通じて組織に競争力のある価値を追加することができる。

MT1: 最新のテクノロジーの動向を理解することができる。

MT2: 適切なテクノロジー要素を用いてビジネスを創出し、組織に競争力のある付加価値を付けることができる。

MT3: 組織的および環境的影響を考慮に入れながらデジタル変革を推進することができる。

## 学修目標達成度 修士（社会起業経営学）

年度	回答者数	MM1	MM2	MM3	MS1	MS2	MS3	ML1	ML2	MI1	MI2	MI3	MI4
2025	2	4.00	4.00	4.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.50	4.00	4.00	4.00	4.00
2024	3	4.67	4.67	4.33	3.00	2.67	2.67	3.67	4.33	3.33	3.00	3.00	3.33
2023	1	4.00	3.00	5.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00
2022	1	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00

上記は平均値で、尺度は以下のとおりです。

1:全く身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:どちらとも言えない、4:ある程度身に付いた、5:身に付いた

これらは毎年6～8月にかけて実施している修了（卒業）直前の正規生を対象としたアンケート調査（通称：修了時サーベイ）の結果を集計したものです。

### ディプロマ・ポリシー

修士（社会起業経営学）の学位課程では、以下の修得を学位授与の条件としています。

#### <多文化・異文化理解と対応能力>

世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する。

MM1: 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる。

MM2: 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる。

MM3: 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる。

#### <社会的責任意識>

関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する。

MS1: 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる。

MS2: 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる。

MS3: 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる。

#### <リーダーシップ>

ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ。

ML1: リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる。

ML2: 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる。

#### <ビジネスの考え方を組み込んだ社会課題解決策>

社会課題を特定した上でその要因を分析し、ビジネスの考え方を組み込んだ持続可能な解決策を確立できる。

MI1: 社会課題を特定する能力を示すことができる。

MI2: 社会課題の根本的な要因を分析する能力を示すことができる。

MI3: 社会課題の要因に対する新たな解決策創出のために異なる考えを結び付ける能力を示すことができる。

MI4: 社会課題への解決策を持続的に提供していくためのビジネスシステムを構築する能力を示すことができる。